



1 学校の教育目標 「気づき、考え、行動する」生徒の育成
 2 経営の基本方針 ○かけ声・笑い声・歌声の響き合う学校 ○集団が育ち、個が生きる学校 ○地域と共に育ち、信頼される学校

※ 太字ゴシックは川内中学校の重点項目

評価領域	評価項目	評価の観点	評価			考察及び改善方策(○考察●改善方策)	学校関係者評価委員の評価
			教職員	生徒	保護者		
生徒指導	いじめや非行への対応	いじめや非行を許さない毅然とした態度で生徒指導に取り組んだ。	3.7	3.9	3.0	○ いじめ事案が発生した際には、即座に情報収集を行い、迅速な問題の解決に努めている。事後には学年集会を行うなど、日々の生活を振り返らせる機会を設けて、より人間関係作りについて考えさせるようにしている。 ● 個々の生徒に応じた適切な指導や支援を行うためには、教職員間での情報の共有化が重要である。特に不登校生徒については、ハートルーム、SSW、SC、医療機関等と連携しながら慎重に対応していく必要がある。 ○ すべての生徒が安心して日々の学校生活を送るためにも、お互いに決まりやルールを守っていくことが大切である。その点において本校の生徒は概ね決まりやルールを守りながら、まじめな生活を送っている。 ○ 学年主任を中心とした学年部内での情報交換を基本として、生徒指導主事との連携や、生徒指導部会による学年を越えた情報共有等を実施することができている。今後もチームとしての取組を継続していく。 ○ いじめの早期発見や早期解決に向けた取組として、毎月実施している「学校生活アンケート」や、生徒が希望する教師と教育相談を行うことのできる「ふれあいタイム」等があり、いずれも一定の効果を出していると考えられる。	教職員と生徒の評価がともに高いことから、安心して過ごせる学校づくりが実現されていることがわかる。とてもありがたいことである。 ● 教職員の評価が低いのは、自身の対応に悩んだり迷ったりしているからではないか。不登校生に対して、地域でもできることがあれば声をかけてほしい。 ● 先生方には、日々の学校生活の中で手本となるような言動をとってほしい。そういった姿を見て生徒は成長していくと思う。 ● 現在、いい形で学校内の連携がとれているのだと思う。今後もチームとしての指導をお願いしたい。 ● 生徒指導領域の中で特に生徒の評価が低い。これは若者の相談下手の表れではないか。もっと他者に自分の気持ちを伝えられるようになってほしい。
	不登校への対応	不登校解消に努めるとともに、不登校生に対して適切な指導や支援を行った。	3.1				
	基本的な生活習慣の定着	挨拶や決まりの遵守など基本的な生活習慣が身に付くよう、指導や支援を行った。	3.6	3.7	3.1		
	生徒指導体制の充実	校内の連携を図り共通理解のもと、適切に生徒に関わる積極的な生徒指導に取り組んだ。	3.5				
	相談体制の充実	教育相談等を通して、生徒のいじめや悩みの早期発見・早期対応に努めた。	3.6	3.4	3.2		
確かな学力を育てる教育	基礎・基本の定着	教科の特性を生かしながら、基礎・基本の定着を図る取組を継続して行った。	3.5	3.3	2.8	● 毎学期、期末テスト前に、生徒自身が復習したい教科を自由に選択できる「学習相談」の時間を設けている。こういった取組によって、つまづきの見られる生徒を支援しながら学力保障につなげていくことが重要である。 ● 例年、家庭学習に対する保護者の評価は低いが、今年度も同様の結果が出ている。学校としてタブレットの持ち帰りを今以上に推奨し、eライブラリ等を用いた家庭学習の定着を図っていく。 ○ 2学期に、市教委と連携しながら四国電力やパナソニックから講師を招き、理科の出席授業を行った。授業では様々な機材を使用した体験活動も盛り込まれ、意欲的に活動する生徒の姿が見られた。 ○ 「進路だより」の発行回数は昨年度の3倍以上となっており、最新の進路情報を生徒・保護者にいち早く提供できている。3年間を系統立てて進路学習を進めていくことで、進路指導が「進学指導」に陥らないよう留意する。 ○ コロナ禍が明けたことで、生徒同士で話し合ったり、教え合ったりする場面を授業の中で設定できるようになった。また、タブレットを活用してお互いの考えを共有し、そこから話し合いを進めていくような授業展開も可能になった。	一人一人の目標設定と習熟度に合わせた指導など、すべての生徒が達成感を持ちながら学ぶことができる学習指導を検討していただきたい。 ● 教師の指示を聞くだけでなく、生徒自らが自分の得意分野を見つけ、積極的に習得していこうとする姿勢も大切ではないか。 ○ 企業の出席授業に対する生徒の関心が高い様子が見られた。個人的にも非常に興味のある取組であった。 ● 進路指導が充実していないという声の一部の保護者から聞いたので、疑問に思うことは遠慮なく教師に聞いてもよいという声掛けを保護者にしてほしい。 ● 学び合いの場作りと基礎・基本を定着させるための学習の場面作りが両立できるようにお願いしたい。
	家庭学習の充実	生徒一人ひとりの実態や学年に応じた、家庭学習の充実を図るための指導・助言を行った。	3.3	3.1	2.5		
	体験的な学習や問題解決的な学習の充実	体験的な学習や問題解決的な学習を、積極的に授業に取り入れた。	3.2				
	進路指導の充実	進路学習指導計画にもとづいて進路学習を実施し、自己の生き方を考えさせた。	3.4	3.3	2.7		
	学び合う授業の創造	生徒の学習意欲を高めるために、学び合いの場を工夫して設定した。	3.4				
豊かな心・健やかな体を育てる教育	道徳教育の充実	教育活動全般を通じて、生徒の道徳性を身に付けようと努めた。	3.4	3.3		● 生徒の道徳的実践力を高めていくうえで、言うまでもなく道徳の授業の果たす役割は大きい。学年内でしっかりと授業に向けた教材研究を行い、すべてのクラスで同じ道徳的価値を共有できるように努める。 ○ 毎月実施している「学校生活アンケート」の結果をもとにして様々な情報を集め、仲間作りや集団作りに生かしている。今後も「魅力ある学校づくり」に向けて、生徒や保護者の声を積極的に聞いていく姿勢が必要である。 ○ 新型コロナウイルスの5類移行後、マスクの着用は各自の判断に任せている。そんな中、生徒は状況に応じてマスクの付け外しを行っている。今後、気温が低くなる中、手洗いや教室換気の徹底を促していく必要がある。 ● 様々な人権問題について、系統的な指導計画を立てて学習を進めている。さらに、同和問題についても教職員自身が正面から向き合い、授業を通して正しい知識と考え方を生徒に身に付けさせていく必要がある。 ○ 授業だけでなく、様々な活動において生徒一人ひとりが「できる」を実感する場面が増え、自尊感情を高めることができている。できたときの喜びを味わわせる場面を工夫していく。 ● 全員部活動制が廃止された中、多くの生徒がいずれかの部に所属し、熱心に活動している。ただし、挨拶励行、時間厳守等、集団としての規律が十分備わっていない面も見られ、その点が教職員にとっての課題である。	道徳教育の充実には毎日の積み重ねであり、その中で参観授業において子どもたちの意見がたくさん聞けたのはたいへんすばらしいことである。 ● 生徒には、お互いに思いやりの気持ちを持って、助け合い、励まし合いながら、良好な人間関係を築いてほしいと思う。 ● 新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、体育祭やマラソン大会が本来の姿に戻ってきている。今後も体を動かす機会が増えるといいと思う。 ● 今年は人権講演会が復活するなど、生徒や保護者の人権意識を高めるための取組が行われていてよいと思う。 ● 若いうちに心を鍛え、自分に自信を持つことで、将来、社会の厳しさに直面しても対応できると思うので、学校には現在の取組を継続してほしい。 ● 部活動の地域移行が進んでいく中、様々な変化が起こることが予想される。他地域の成功事例等の情報を積極的に収集していくことが必要である。
	仲間づくり・集団づくり	学校生活のアンケート結果等を活用して、望ましい集団づくりに努めた。	3.4	3.7	3.2		
	健康づくり・体力づくり	日々の生活の中で、健康管理や体力作りに努めるよう生徒に指導・助言を行った。	3.7	3.6	2.9		
	人権・同和教育の推進	教育活動全般を通じて、生徒に人権感覚を身に付けさせるための指導を行った。	3.6				
	自尊感情の高揚	生徒一人ひとりのよさに目を向け、それを称揚することによって自尊感情の高揚に努めた。	3.5	3.5			
	部活動の充実	部活動の意義を生徒に理解させ、充実した部活動を展開した。	3.0	3.5	3.2		
特別支援教育	特別支援教育の充実	生徒一人ひとりの実態や特性の理解に努め、生徒の状況に応じた学習指導や助言を行った。	3.5	3.6		○ 教職員全員が情報交換を密にしなが、チームとなって生徒に寄り添い、個に応じた支援を行っている。関係機関とも連携し、先を見据えた指導を行っていくことが重要である。	● 生徒の評価が高いのは、先生方の熱意が十分伝わっている表れだと思う。今後も現在の指導を継続していただきたい。
安全・安心な教育環境の整備	登下校の安全確保	継続した登下校指導を実施し、登下校の安全確保や、生徒の交通ルール、マナーの向上を図った。	3.1	3.9	3.4	● 生徒の自己評価は高いが、実際には地域の方から「登下校中に交通ルールを守っていない生徒がいる」という指摘をいただいている。今後、登下校時の交通安全指導と見守り活動の強化を図っていく。 ● 「東温市小中学校防災教育研修会」において、現実に即した避難訓練の在り方について学ぶことができた。今後、避難訓練を実施する際には従来のやり方を改め、被災時にとるべき行動を生徒にも周知していく。	● ルール遵守の指導に加え、ルールそのものの内容や必要性について生徒自らが主権者として考え、議論することで順法意識が高まるのではないかと。 ● 能登半島地震における被害も踏まえ、より防災意識を向上させる必要がある。今後、地域の消防団との連携も図ってほしい。
	防災教育の充実	保護者や地域との連携を図り、防災に関する生徒の意識を高め、「自助から共助」への防災教育を展開した。	3.2	3.8	2.8		
家庭・地域との連携	開かれた学校づくりとコミュニティ・スクールの推進	「学校通信かわうち」やホームページなどにより、学校の情報を分かりやすく公開した。	3.7	3.7	3.1	○ 大きな行事だけでなく、日々の学校生活の様子についてもホームページで紹介するように努めている。今後、マチコミを有効に活用していくことで、保護者への情報提供をより迅速に行っていく。 ○ 地域協働活動支援コーディネーターがジョブチャレに大きく携わるようになったことで、職場体験学習がより地域に根差したものになった。教職員とコーディネーターの間で情報共有をしっかりと行っていくことが課題である。	● 不審者対応におけるマチコミの配信は非常に効果的である。ただし、生徒に直接情報を配信できない点は不安を感じる。今後の検討課題であろう。 ● 今年度のジョブチャレは大きく形を変えて実施された。良かった点、悪かった点を整理して、来年度、さらにアップデートしたものにしたい。
	地域教材の有効活用	地域の人材や施設・自然などを取り入れた授業や活動を行った。	3.3	3.6	2.9		
特色ある学校づくり	ボランティア活動の充実	生徒がボランティア活動への興味や意識を高めるための、工夫や支援を行った。	3.3	3.0	2.6	● アルミ缶やエコキャップの回収運動など、日常的にボランティア活動に取り組んでいるにもかかわらず、生徒・保護者の認識が低い。活動の成果を目に見える形で紹介することで、活動に対する意識の向上につなげていく。 ○ 様々な行事の際には、生徒が主体的に活動することを重視し、教師は側面から支援するというスタンスをとっている。その結果として、事後のアンケートにおいて、多くの生徒は高い満足度を示している。	● 子どもたちが実際にボランティア活動に取り組んでいる様子や事後の感想等を、いろいろな形で紹介していけば、生徒・保護者の評価も上がると思う。 ● 学校通信などから、各行事の際に生徒一人一人が自主的に「計画・実行・見直し」を行っていることが分かる。今後も現在の取組を継続してほしい。
	目指す生徒像の意識の定着	目指す生徒像「気づき、考え、行動する生徒」に対する意識を定着させるための、工夫や支援を行った。	3.4	3.5			
施設・設備の充実	ICTの有効活用	教育効果を高めるために、電子黒板やタブレットPCなどの教育機器を用いた授業を行った。	3.5	3.6		○ タブレットPCを活用した授業実践もかなり進んできており、授業に対する生徒の意欲向上につながっている。今後も教職員が積極的に研修会等に参加することで、IC機器の活用におけるスキルアップを図っていく。 ● 学校安全計画(危機管理マニュアル)の見直しを適宜行い、安全・安心な教育環境の整備に努める。見直しの際には、今年度の反省を踏まえて、不審者対応についてもしっかりと明記する。	● タブレットが持ち帰れるようになり、自宅待機している生徒や不登校の生徒等の学びの場が広がることは大変よいことである。 ● 教育環境が整ってほしい。ただし、そんな中で不審者事案も発生したので、安心せずに定期的な安全点検をお願いしたい。
	施設・整備の安全管理	定期的な安全点検の実施により、安全・安心な教育施設環境を確保した。	3.3	3.7	3.4		